

科 目 名		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
卒業研究: Graduation Research		5C	10	900分×30回	必修	実験/演習・通年	-
教 員 名	物質工学科各教員						
授業概要	文献調査、研究の計画、実験の実施、実験結果の解析と考察、今後の取組等を通じて、自ら新しい情報を獲得して研究を計画・遂行できる能力の育成を行うとともに、課題に対する解決能力及び研究成果をまとめて説明・説得する力を養う。学生は各研究室に少人数毎に配属し、担当教員(指導教員)による個人指導が行われる。学年末に、学生は卒業論文を提出し、卒業研究の成果を発表する。						
到達目標				評価方法		評価配分	
(1) 自主的に新しい情報や知識を習得し、課題へ継続的に取り組むことができる。				(1) 課題への取組によって評価する。(指導教員が評価)		20%	
(2) 研究の目的を理解し、実験を計画して遂行し、結果を整理して解析できる。				(2) 実験データ・資料・レポート等で評価する。(指導教員が評価)		20%	
(3) 研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できる。				(3) 卒業論文によって評価する。(指導教員30%、副査10%)		40%	
(4) 研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができる。				(4) 卒業研究発表及び発表予稿集で評価する。(指導教員以外の全教員が評価する)		20%	
学習・教育目標		(A)②④		JABEE基準1(1)			
授 業 計 画	回	項 目	内 容	回	項 目	内 容	
	第1	1. スケジュール		第16	研究室名	テーマ名	
	第2	(1) 研究準備(調査・予備実験など)(4月) (2) 調査・実験・データ整理・解析など(5月～2月) (3) 卒業研究発表会(		第17	品川恵美子	(1) 微生物の利用および微生物酵素に関する研究	
	第3	2. 卒業研究論文 卒業研究論文は、所定の様式(目的・方法・結果・考察・結論等)に従って作成し提出すること。		第18	福地 賢治	(1) 物性と相平衡の測定および推算	
	第4	3. 卒業研究発表		第19	竹内 正美	(1) 工業排水処理技術の開発 (2) 有機性廃棄物の処理技術の開発	
	第5	(1) 卒業研究発表会は公開とし、学外者、教員および物質工学科4、5年生の多人数を対象としてプレゼンテーションを行う。 (2) 研究概要をA4用紙1枚にまとめ提出する。 (3) わかりやすい表現でプレゼンテーションを行う。		第20	西野 順也	(1) 有機性廃棄物の分解資源化技術の開発 (2) 高機能性触媒の開発	
	第6			第21	小倉 薫	(1) 新規イオン液体および高蛍光性錯体の開発 (2) 有機ELおよび有機薄膜太陽電池の開発	
	第7	4. 各研究室およびテーマ名は右欄の通り。		第22	山崎 博人	(1) 環境共生型高分子材料の開発と応用 (2) 高機能性高分子材料の開発とその新機能発現メカニズムの解明	
	第8			第23	根来 宗孝	(1) 蛋白質・薬物相互作用の解析 (2) 化合物のグルコース測定系に及ぼす影響について	
	第9			第24	中野 陽一	(1) 生物脱臭・生物ろ過に関する研究 (2) マイクロバブル、気体溶解調整器の応用技術開発 (3) 人工干潟・藻場生態系の自律的再生・維持管理技術	
	第10			第25	高田陽一	(1) 新規機能性界面活性剤の開発 (2) 濡れ性の評価法と制御技術の開発	
	第11			第26	三留 規誉	(1) 回転分子モーターの機能解析 (2) イオン輸送膜タンパク質の研究	
	第12			第27			
	第13			第28			
	第14			第29			
第15			第30				
自学自習の内容	レポートを課す。						
関連科目	物質工学ゼミ、物質工学実験、生物工学実験、物質工学演習、生物工学演習、化学反応工学実験、生物反応工学実験						
教科書							
参考書							
授業評価・理解度	最終回到授業評価アンケートを行う。						
副担当教員							
備考							